

運営マニュアルも作成している。

▼三谷よし恵議員

住んでいる地域により、近くの集会所へ避難するケースも想定されるが、集会所の耐震診断等について問う。

▼平石稔総務課長

避難所として指定する場合は指定されていることが条件で、耐震診断から設計、改修費に対する補助基準額に対して、国・町それぞれ2分の1補助を受けることができる。すぐに国から予算がつく訳ではないが、各地区から要望を上げていただきたい。

▼三谷よし恵議員

仮設住宅について、設置場所等計画しているのか。

▼下村賢彦町長

応急仮設住宅の建設用地は、大豊町応急機能配置

計画で候補地を上げていく。最大規模の地震が発生した場合には、213戸必要であると想定し、旧学校グラウンド等15カ所を想定している。

また、一般財団法人日本ムービングハウス協会と、災害時における応急仮設住宅の建設に関する包括連携協定を締結している。



Q&A 2

問 3月議会一般質問のその後の対応は慎重に検討し、できることはすばやく対応する



山北英二議員

であり、財源確保の課題もあることから今後においては、慎重に検討したい。

▼山北英二議員

農地バンクや空き家情報を掲載する町ホームページの改修状況を問う。農地バンクのデータが閲覧できないものがある点は早急な修正を求める。また、ライフビジョンタブレットについて、町の該当ホームページへ直接移動できるリンク機能の導入を提案する。

▼下村賢彦町長

情報構造の複雑さやスマートフォン対応の不十分さなどの課題を認識しており、全庁的なヒアリングを実施しながら再構築を検討している。住民目線での情

▼山北英二議員

国見山風力発電事業について、指摘していた枯谷地区への説明不足、古屋谷川の水利利用への影響、馬瀬地区住民への環境アセスメント未実施などの懸念についての事業者への報告状況と回答を問う。

▼下村賢彦町長

町から3月に事業者である電源開発へ伝達した。

▼山北英二議員

その後、業者より回答がないため、再度申し入れを行うよう要望する。

る。

▼下村賢彦町長

議員の意見を改めて事業者へ伝える。

Q&A 3

問 地籍調査未実施地区について災害工事等は個別に相談を

▼山北英二議員

地籍調査の実施区域がどのような基準で決められているのか。町は空き家や農地の利活用を進めるために、売買や賃貸が見込まれる住宅地や農地を優先的に調査すべきと考える。

▼下村賢彦町長

地籍調査は第7次10カ年計画に基づき、土地の連続性を重視して進めており、飛び地的な実施は境界確認に支障が生じるため難しい。また未実施地域でも現況などを活用することで

Q&A 4

問 懲戒処分に関する指針について町独自の指針の必要性は検討する

▼山北英二議員

昨年12月議会で停職期間の上限を6カ月から12カ月に改正したことを踏まえ、職員の懲戒処分に関する明確な指針を策定・公表すべきと考える。人事院の懲戒処分指針や他自治体の事例を参考にすることで、処分の公平性や透明性を確保できるほか、職員自身のコンプライアンス意識向上にもつながると思う。

▼下村賢彦町長

現在も人事院の指針や県

▼山北英二議員

将来、首長が交代しても公平な判断が維持されるよう、指針の文書化やホームページへの掲載を求める。

▼下村賢彦町長

懲戒処分は職員の人生に大きな影響を与えるため、慎重な判断が必要であり、本町独自の指針の必要性については今後検討していく。

Q&A 5

問 高須地区の観光看板について地域住民の協力で維持している

▼山北英二議員

高須地区の旧国道439

号沿いのガードレールに設置されている「美空ひばりゆかりの地大豊町」の看板につ

報整理を進め、令和9年度を目標に見直しを行う考えである。またすばやく対応できるものや予算を伴わない改善については速やかに対応する。

リンク機能は技術的には可能であり、動作確認を行ったうえで問題がなければ導入を進める。

いて、草木に隠れて見えにくくなっていることや、観光客の動線が道の駅や杉の大スギ周辺に移っていることから、杉の大スギ入口付近への移設を提案する。

▼下村賢彦町長

看板は昭和22年の美空ひばりさんのバス転落事故現場付近という歴史的な意味を持つ場所に設置されており、移設は難しい。杉の大スギとの関わりを伝える新たな案内表示や情報発信の充実については必要と考える。

▼山北英二議員

既存の看板が移設できないのであれば、周辺の急な法面は雑草が茂り景観を損なうため、草刈り等の管理体制の強化を要望する。

▼下村賢彦町長

現在は地域住民の協力による草刈り等で維持している。